

ICTを活用した授業設計

第7講 「アクティブ・ラーニングとICTの活用」

久世 均
(岐阜女子大学)

「アクティブ・ラーニングとICTの活用」

【目 的】

次期学習指導要領におけるアクティブ・ラーニングとICTの活用について理解する。

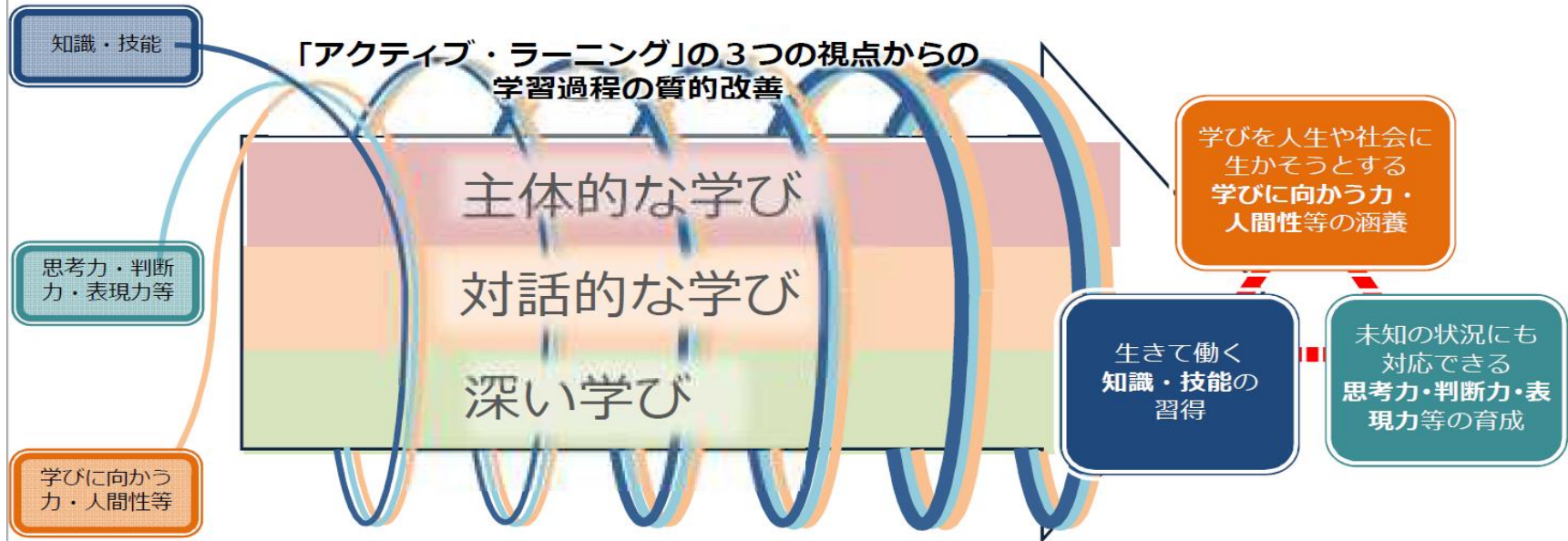
【学習到達目標】

1. アクティブ・ラーニングについて具体例を挙げて説明できる。
2. アクティブ・ラーニングとICTの活用について説明できる。
3. J・B・キャロルの学校学習の時間モデルについて説明できる。

「アクティブ・ラーニング」

資質・能力の育成と 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるといっ方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

キャロルの学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習に費やされた時間} \\ \text{Time Spent}}{\text{学習に必要な時間} \\ \text{Time Needed}}$$

キャロルの学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習機会} \times \text{学習持続力}}{\text{課題への適性} \times \text{授業の質} \times \text{授業理解力}}$$

課題

(1) アクティブ・ラーニングを授業の中に定着するためには、どのようなICT環境が必要かグループで協議しなさい。

(2) J・B・キャロル (Carroll) が1963年に提唱した学校学習の時間モデルにおいて、学習率を高めるにはどのような授業改善が必要かグループで協議しなさい。